

平成27年度事業計画書

(平成27年9月1日から平成28年8月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

特定非営利活動法人フードバンク関西は、本年度、活動13年目に入ります。2003年4月の活動開始以来、「食べ物は命の糧、大切にしたい」の思いに、皆様からの共感を得て、フードバンク事業を継続して参りました。このように、事業を無事に継続できますのも、皆様からのご支援の賜と感謝し、本年度も事業内容の一層の充実を図る1年となるよう、ボランティア一同、心を合わせて努力したいと考えます。新年度、特に力を入れたい事業について、下記に説明します。

(1) 余剰食品の受領と福祉団体への無償分配

①取扱食品の確保、及びセカンドハーベストジャパンアライアンスへの加盟

フードバンク関西は、昨年度に引き続き本年度も、食品関連企業から品質に問題のない余剰となった食品を引き取り、要支援生活者の自立を支援する非営利福祉団体に、これらが無償で分配する事業を継続し、さらに発展させます。

今後は受け取り団体や支援対象世帯への分配食品の種類を増やし、特に主食、副食の食材確保に努力したいと考えます。そのための食品関連企業訪問を継続します。

また、本年度中にセカンドハーベストジャパンアライアンス(注記)に正式加盟を果たし、企業からの信頼度を増すことで、食糧の寄贈を受けやすくなる事を目指します。

(注記) セカンドハーベストジャパンアライアンスは、フードバンク団体のネットワーク組織として、昨年立ち上げられた公益財団法人です。アライアンスへの加盟にはフードバンクガイドラインの遵守と監査基準を超える食品管理等、6要件を満たす必要があります。

②フードドライブ

家庭から廃棄される食品の中には手つかずの食品が22%も含まれ、その4分の1は賞味期限も切れていなかったという調査結果があります。家庭で賞味期限は過ぎていないが不要となった食品を、企業、地域、学校等団体のチャリティ行事として、参加者が持ち寄り、集めてフードバンク団体に寄付する行事が「フードドライブ」です。

昨年度から取り組みを本格化させたフードドライブを、より多くの他団体への働きかけを強化して、本年度はその内容を充実し、家庭からの廃棄されるかもしれない「もったいない食品」を再び生かす手段として、また市民の皆様には缶詰1個、お米カップ1杯からできる助け合い活動として、地域の定常的な行事として定着するよう、働きかける努力をします。

フードバンクにとっては、参加者に事前告知をする時、集めたい食品の種類を指定する事ができるので、最も必要とする食材集めを効果的に実行する機会にもなります。

(2) 食のセーフティネット

食のセーフティネットは、一時的に困窮状態に陥った一般市民に対し、行政等の第3者機関から支援要請を受け、当法人が緊急支援食糧を無償で提供する仕組みです。

昨年度、尼崎市と宝塚市とは直接の事業協定を結ぶことができました。西宮市、伊

丹市、芦屋市、川西市とは各地域の社会福祉協議会が窓口団体になっています。各市から入る支援要請件数は毎年増加しており、本年度もさらなる増加が見込まれます。それに応えるべく、安全性の高い調理のிரない食糧の確保に努力します。

その内の生活保護受給者に対する食糧支援については、尼崎市で来年4月以降は市の事業として取り組む方針が出され、現在事業協定の締結の準備に入っている神戸市社会福祉協議会でも、生保受給者をこの仕組みの対象外とする事が検討されており、今後は生保受給者への食支援は減少するのではないかと予測されます。それに代わって、生活困窮者自立支援法が4月から施行されたことによる、各行政の相談窓口での相談者への食支援要請が、今後は増加すると考えられます。当法人としては、生保受給以前の段階で自立への努力を重ねている人達への、自立が実現するまでの期間の食支援が本来あるべき形と考えているので、この傾向は望ましい変化と考えます。

(3) 子供元気ネットワークひょうご

今年4月から取り組み始めた、3NPOの連携事業である「子ども元気ネットワークひょうご」事業で、フードバンク関西はすでに5カ月にわたり食支援を継続しています。「心の支えになり精神的にほっとする」「子供が宝箱を開ける楽しみを1カ月に1回待っています」「生きる勇気と感謝の気持ちでいっぱい」等々、会員からの声が届いています。子ども達の育つ環境を少しでも安定感のあるものにするべく、来年4月以降、会員数を少しずつ増やしていきたいと考えます。

(4) 運営基盤強化のための取り組み

フードバンク関西が抱える最大の課題は、日々拡大する活動に必要な運営資金を、継続的、安定的に確保するための方法、仕組みの構築が模索の状態にある事です。

本年度は、「フードドライブ」、「食育プログラム」等、他団体との連携や多くの市民に参加していただく取り組みを通じて、当法人の活動への理解を求め、賛助会員を増やします。また食のセーフティネット事業で協働している6市とも、食糧確保のために必要なコストの分担や食糧集めへの協力を求めています。

現在、ホームページの全面更新の準備をしています。なるべく早急に新たなホームページへと更新し、インターネットを通じての情報提供を充実します。

私達の活動を継続して支えて下さっている賛助会員の皆様に大切にし、「会員個人の負担は軽いから毎年継続できる。」「フードバンク関西は今、どのような活動をしているのか、いつでも分かる」と言ってもらえるような、皆様への情報公開と、ご支援をいただきやすいNPOであり続けていきます。

(5) 法人の事業形態の維持

フードバンク関西は、必要とする食糧の大半を、地域の企業や市民の皆様からの寄付で集めて、関西で生活する支援を必要とする人達へ無償で分配しています。運営資金も賛助会員年会費と寄付をお寄せ下さる皆様の温かなご支援で賄っています。

「地域の余剰食品を、地域のボランティアが回収して、支援を必要とする人達に無償で分配し、その運営資金を地域の市民が支援する」形を、フードバンク関西の将来のあるべき姿として、その実現を目指します。

当法人は、専従職員を置かず54人のボランティアで作業を分担し活動している日本のフードバンク団体の中では珍しい存在です。この事業形態は、運営コストが最低で済み、各ボランティアが平等の立場で責任を分担する事により、それぞれが事業全

体を見渡す力がついて主体的に参加できるという長所があります。また、この態勢は急激な変化や規模の飛躍的拡大には不向きですが、福祉施設や地域と良い関係を保ち、参加者が協力して、地道に事業を拡大していく事が出来ます。

「命の糧である食べ物を大切にし、まだ食べられるのに廃棄される食品を引き取り、それらを必要とする人達に届け、「ありがとう」が飛び交うフードバンク関西の活動スタイルを、継続していきたいと考えます。ご支援をよろしくお願い致します。